

第2節 子どもの交通事故に関する現状

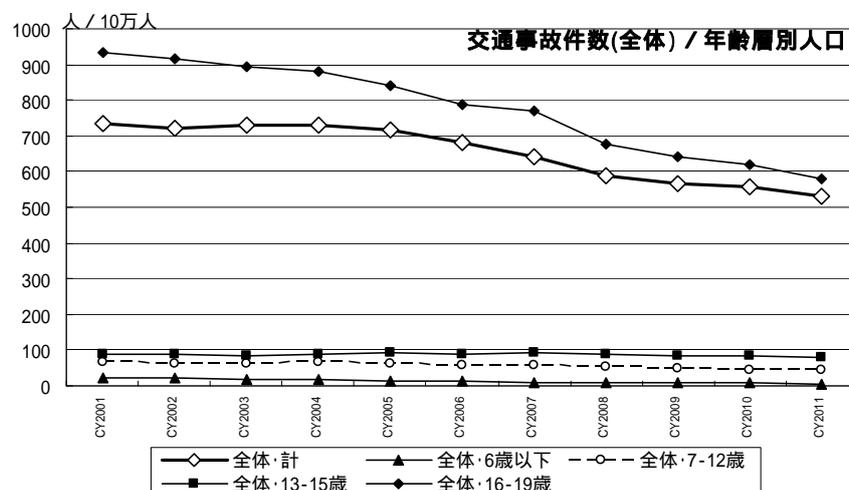
1. 統計データによる傾向分析

以下では、交通事故総合分析センター『交通統計』『交通事故統計年報』（各年版）のデータを用いて、子どもの交通事故の傾向を整理する。

(1) 人口当たり交通事故件数

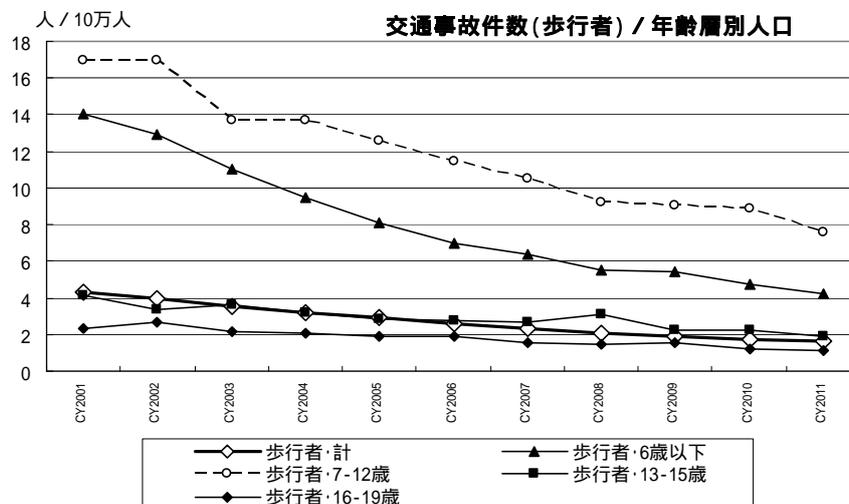
人口 10 万人当たり交通事故件数（第 1 当事者）割合は、16-19 歳で高い。

図表 II- 5 年齢階級別・人口 10 万人当たり交通事故件数（第 1 当事者）



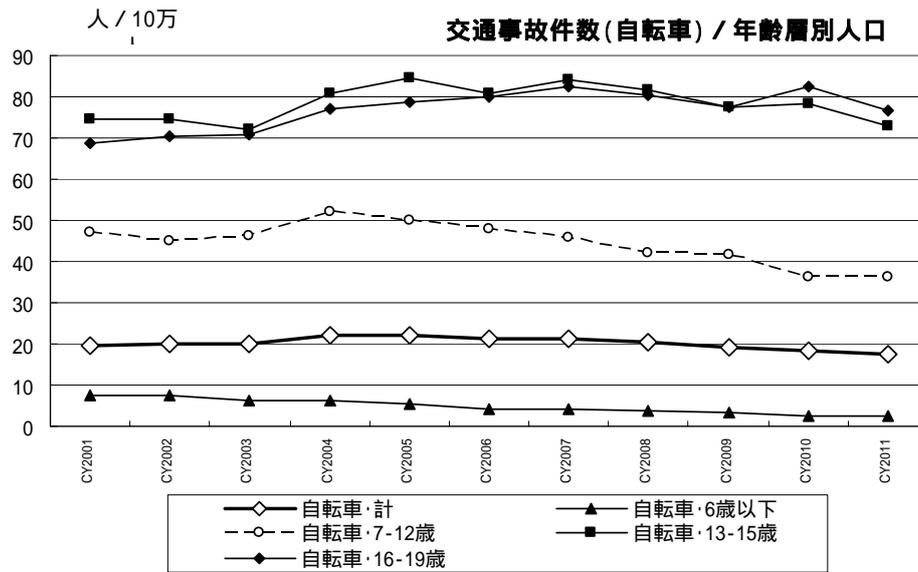
件数は少ないが、人口 10 万人当たり歩行者交通事故件数（第 1 当事者）割合は、6 歳以下および 7-12 歳で高い。

図表 II- 6 年齢階級別・人口 10 万人当たり歩行者交通事故件数（第 1 当事者）



7-12 歳、13-15 歳、16-19 歳は、人口 10 万人当たり自転車乗用中交通事故件数（第 1 当事者）割合が高い。（特に 13-15 歳、16-19 歳）

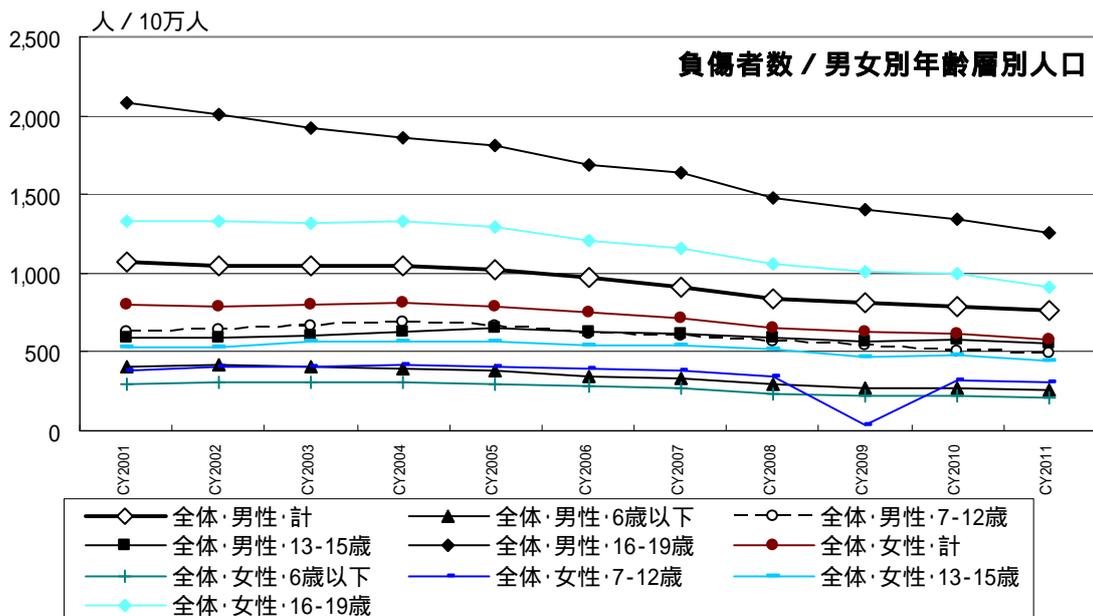
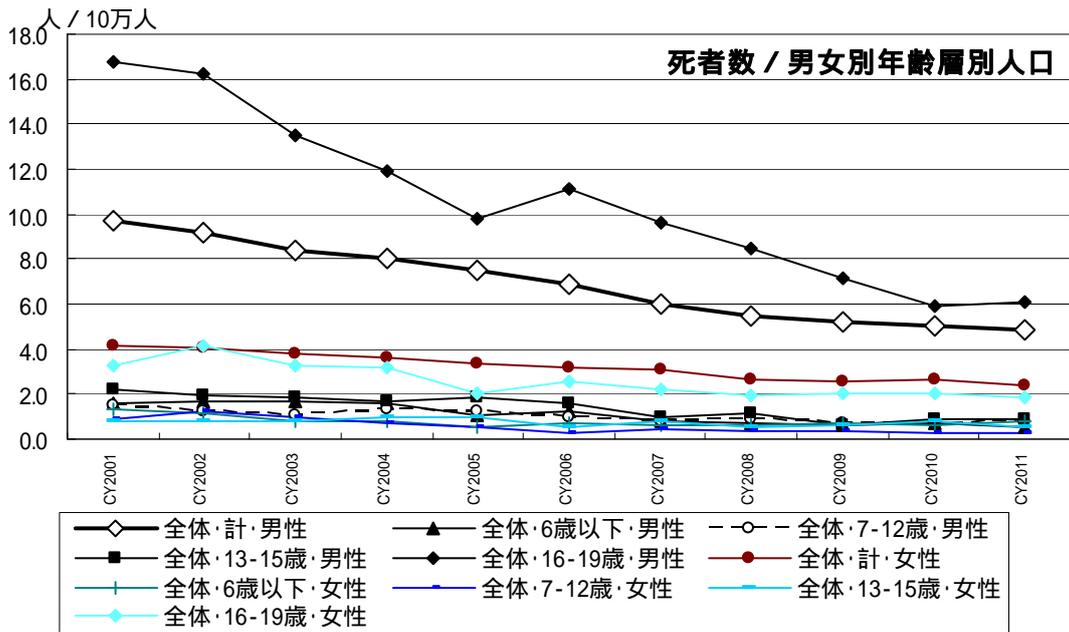
図表 II- 7 年齢階級別・人口 10 万人当たり自転車交通事故件数（第 1 当事者）



(2) 人口当たり交通事故死者数

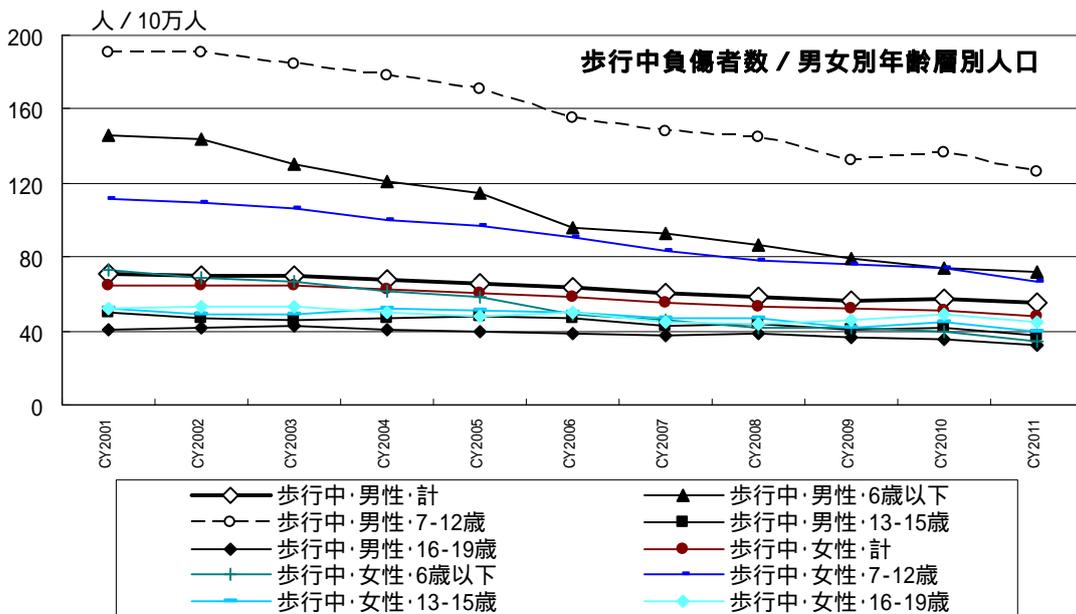
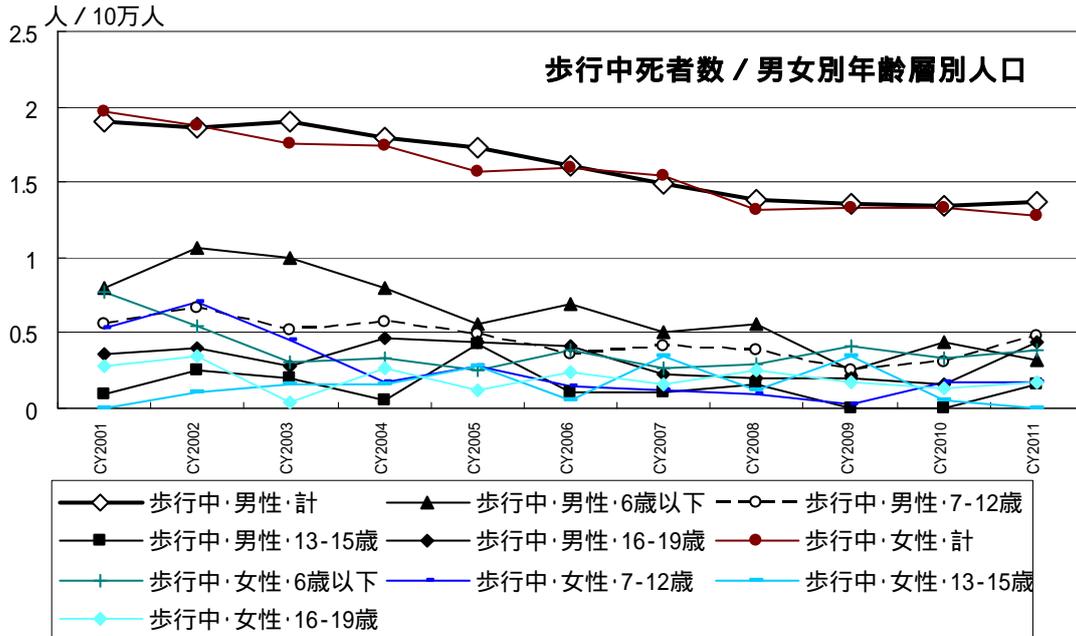
人口 10 万人当たり交通事故死者数は 16-19 歳男子が多い。負傷者数は男女とも 16-19 歳が多い (特に男子)。

図表 II- 8 年齢階級別・人口 10 万人当たり交通事故死者数 (上) ・負傷者数 (下)



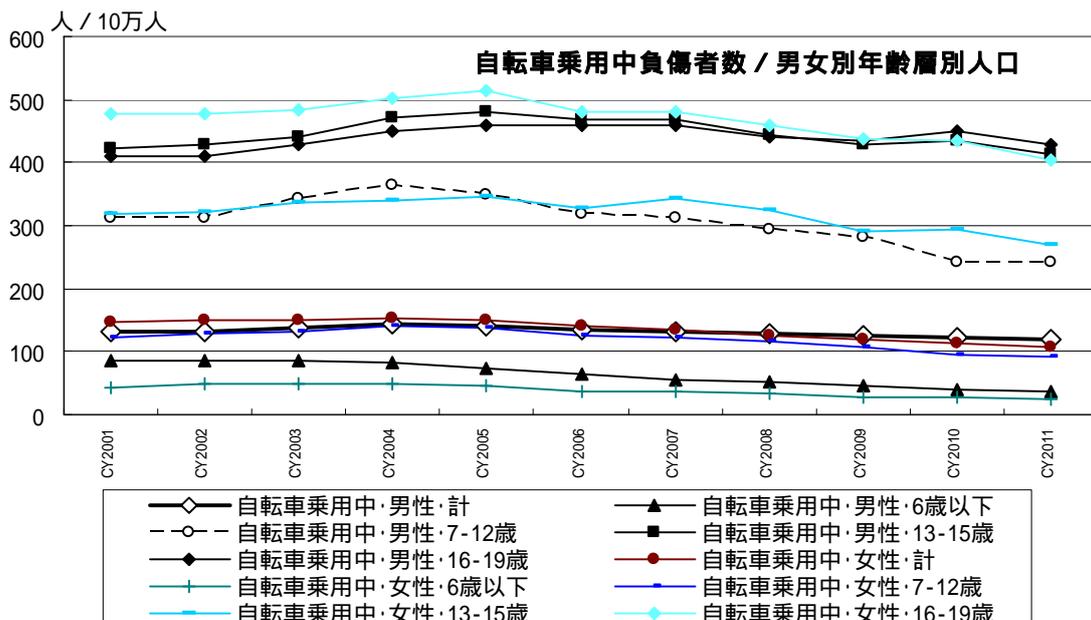
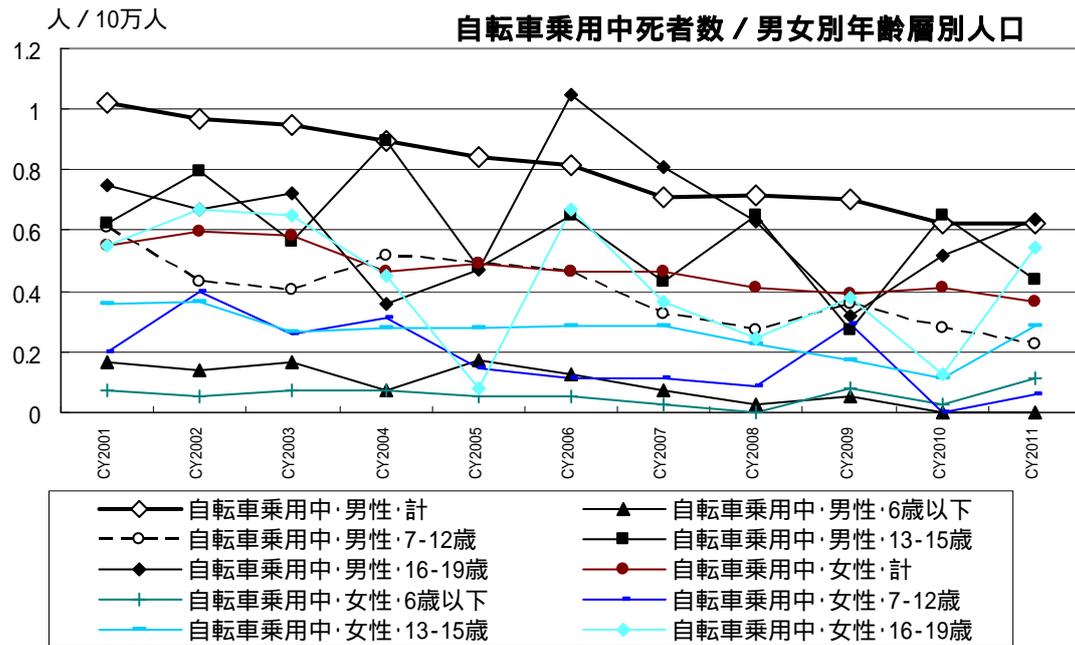
子どもの人口 10 万人当たり歩行中の交通事故死者数は、男女とも全年齢平均を下回っている。しかし、負傷者数では 7-12 歳男子・女子と 6 歳以下男子が全年齢平均を上回っている。（特に 7-12 歳男子）

図表 II- 9 年齢階級別・人口 10 万人当たり歩行者交通事故死者数（上）・負傷者数（下）



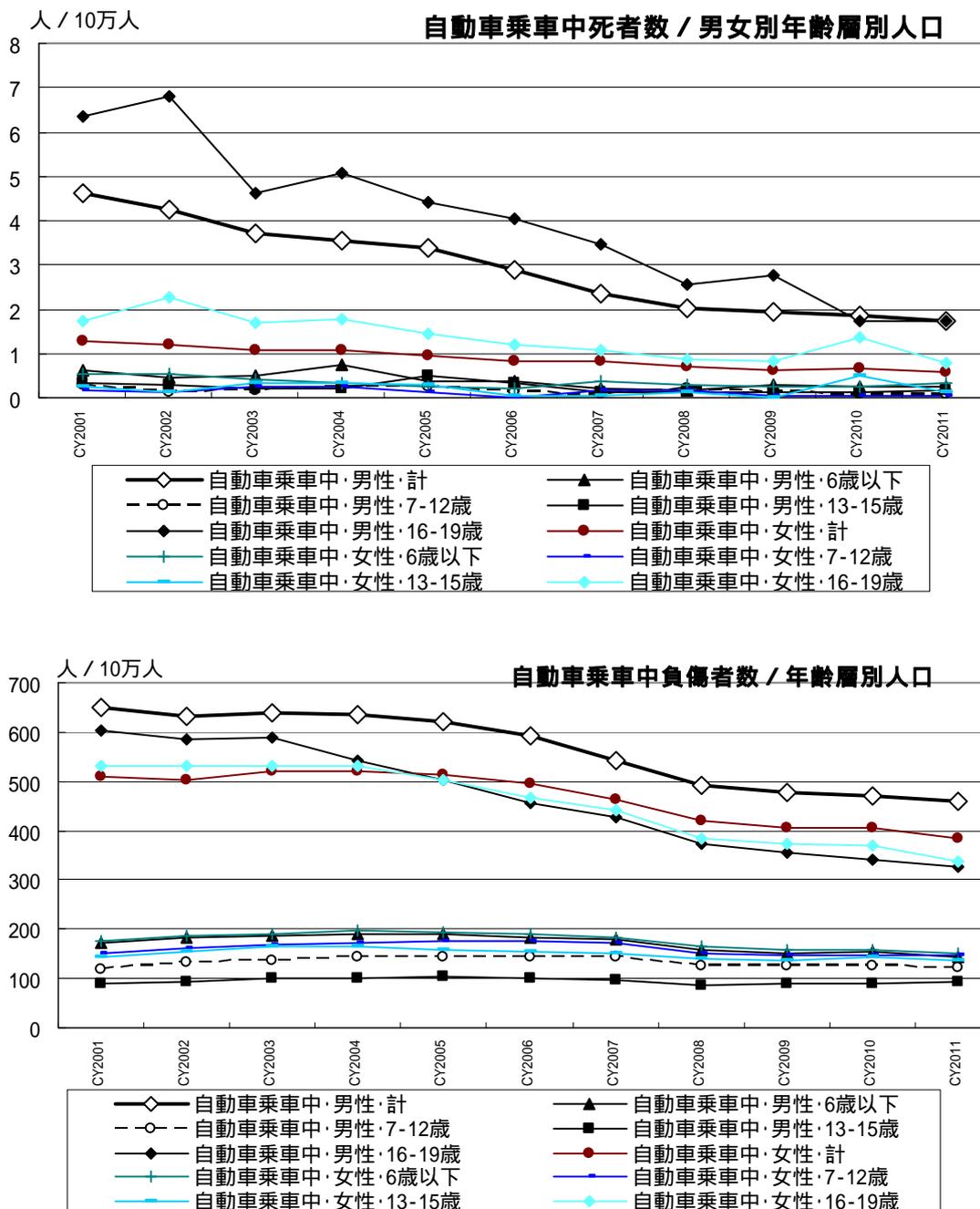
子どもの人口 10 万人当たり自転車乗用中の交通事故死者数は、全年齢平均と比べ高いとは言えない。しかし、負傷者数では 7-12 歳男子、13-15 歳男女、16-19 歳男女で平均を上回っている。（特に 16-19 歳男女、13-15 歳男子）

図表 II- 10 年階級別・人口 10 万人当たり自転車乗用中交通事故死者数(上)・負傷者数(下)



人口 10 万人当たり自動車乗車中の交通事故死者数は、近年急激に低下しつつあるものの 16-19 歳男子で全年齢平均を上回っている。一方、負傷者数は、他の子どもの年齢階級に比べ 16-19 歳男女の割合が高いが、近年では全年齢階級平均を下回っている。

図表 II- 11 年齢階級別・人口 10 万人当たり自動車乗車中交通事故死者数(上)・負傷者数(下)

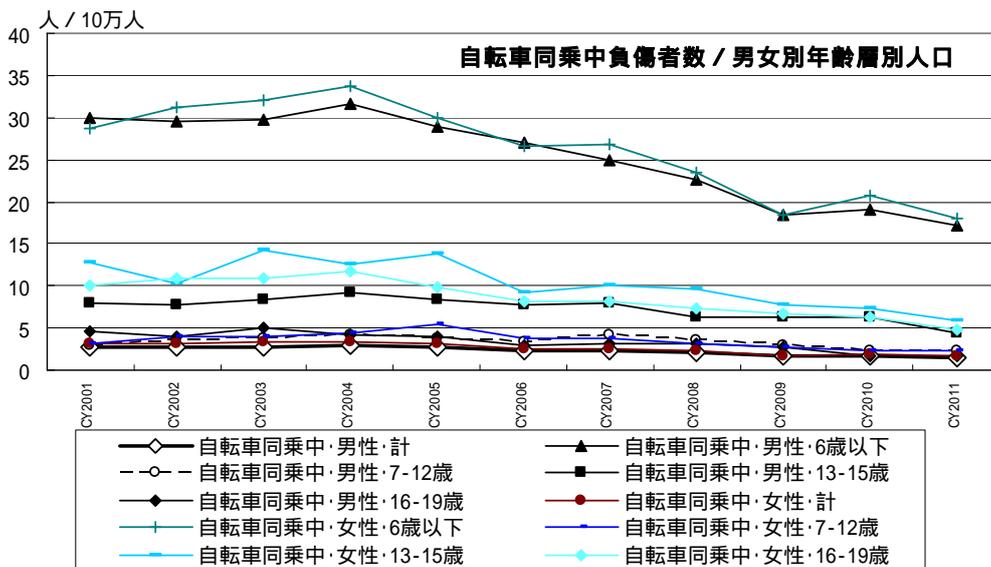
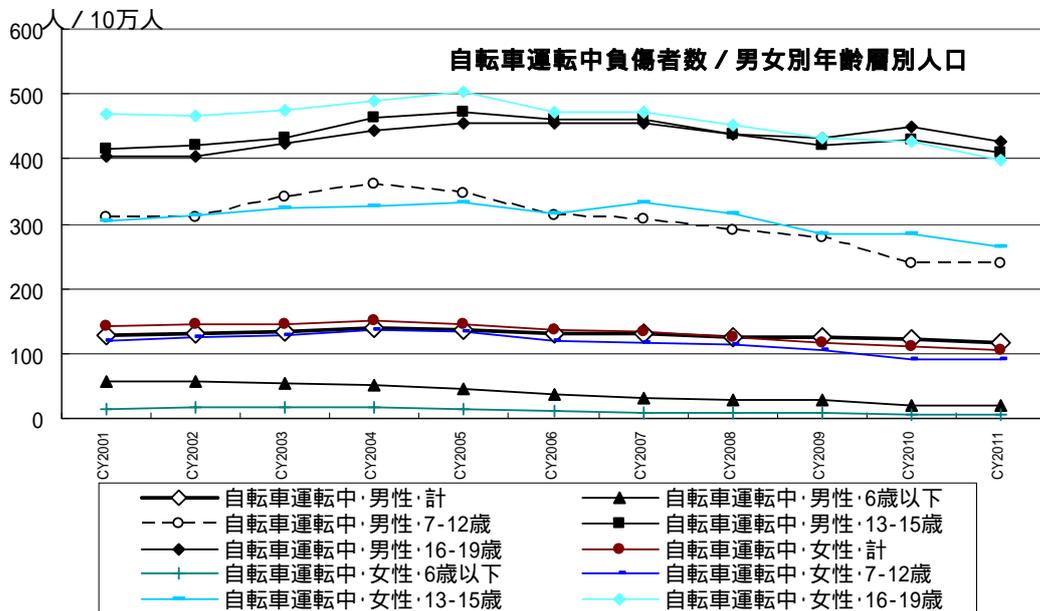


<参考>

子どもの事故割合が高い自転車「乗用中」の負傷者数を、さらに「運転中」と「同乗中」に分解して比較

自転車「運転中」の交通事故負傷者数割合は、7-12歳男子、13-15歳男女、16-19歳男女で全年齢平均を上回っている（特に16-19歳男女、13-15歳男子）。一方、自転車「同乗中」の交通事故負傷者数割合は、6歳以下男女で全年齢平均を大きく上回っている。

図表 II- 12 年齢階級別・人口10万人当たり自転車運転中負傷者数(上)・同乗中負傷者数(下)



6歳未満の同乗中の幼児は頭部損傷（構成率 40.5%）が4割以上を占める。それ以外の年齢層の損傷部位は、すべて全ての年齢層で脚部が最も多く、頭部損傷の割合は1～2割程度である。

図表 II- 13 自転車乗用中の年齢層別・損傷部位別死傷者数（平成 24 年）

年齢層別	損傷部位別	全損	頭部	顔部	頸部	胸部	腹部	背部	腰部	腕部	脚部	その他	合計
15歳以下		1	3,510	1,490	1,594	817	355	163	1,147	4,600	9,758	4	23,439
	構成率	0.0	15.0	6.4	6.8	3.5	1.5	0.7	4.9	19.6	41.6	0.0	100.0
	6歳未満同乗中	0	497	147	79	18	10	7	18	181	270	0	1,227
	構成率	0.0	40.5	12.0	6.4	1.5	0.8	0.6	1.5	14.8	22.0	0.0	100.0
16～24歳		2	2,891	1,305	3,238	961	274	217	2,484	5,407	12,594	8	29,381
	構成率	0.0	9.8	4.4	11.0	3.3	0.9	0.7	8.5	18.4	42.9	0.0	100.0
		4	5,387	2,238	7,263	2,977	455	462	5,853	11,303	19,744	19	55,705
	構成率	0.0	9.7	4.0	13.0	5.3	0.8	0.8	10.5	20.3	35.4	0.0	100.0
65歳以上		17	4,304	989	1,660	1,888	220	214	2,717	4,052	7,157	19	23,237
	構成率	0.1	18.5	4.3	7.1	8.1	0.9	0.9	11.7	17.4	30.8	0.1	100.0
	計	24	16,092	6,022	13,755	6,643	1,304	1,056	12,201	25,362	49,253	50	131,762
	構成率	0.0	12.2	4.6	10.4	5.0	1.0	0.8	9.3	19.2	37.4	0.0	100.0

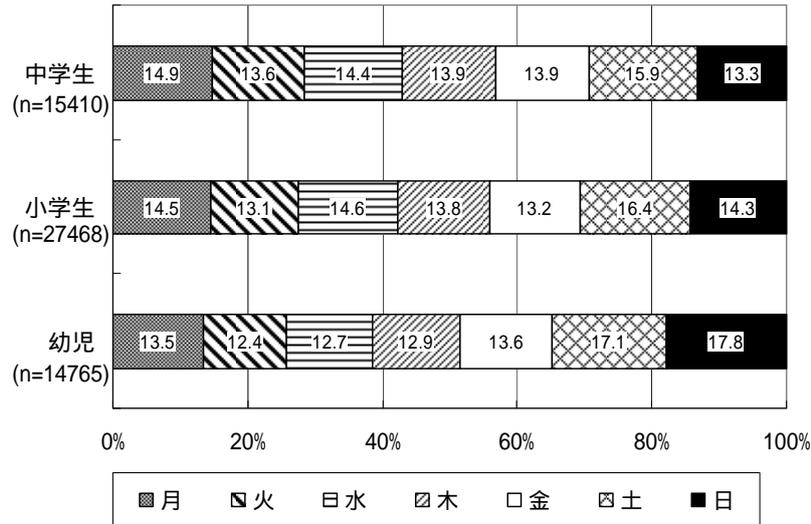
注 「全損」とは、損傷が多数あり、致命傷が複数ある場合をいう。

資料）警察庁交通局（2013年）『平成24年中の交通事故の発生状況』

(3) 子どもの交通事故における曜日・時間帯・目的・道路形状・自宅からの距離 (2011年)
 曜日別死傷者数

子どもの交通事故死傷者数は、曜日別に際立った傾向は見られない。ただし、幼児では親とともに行動することの多い土日の土書き数割合が若干高くなっている。

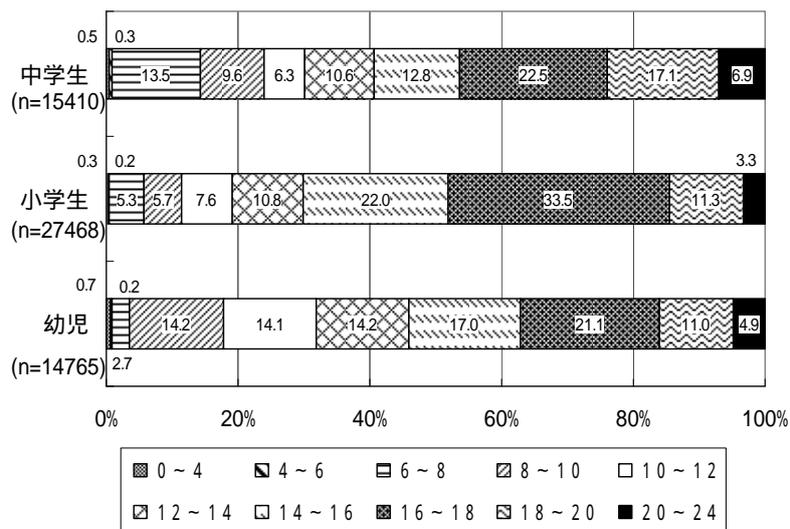
図表 II- 14 中学生・小学生・幼児別・曜日別交通事故死傷者数内訳 (2011年)



時間帯別死傷者数

子どもの交通事故死傷者数は、16～18時を中心に、夕方の時間帯で多くなっている。幼児・小学生では14～16時も多く、中学生では18～20時がこれに次いでいる。

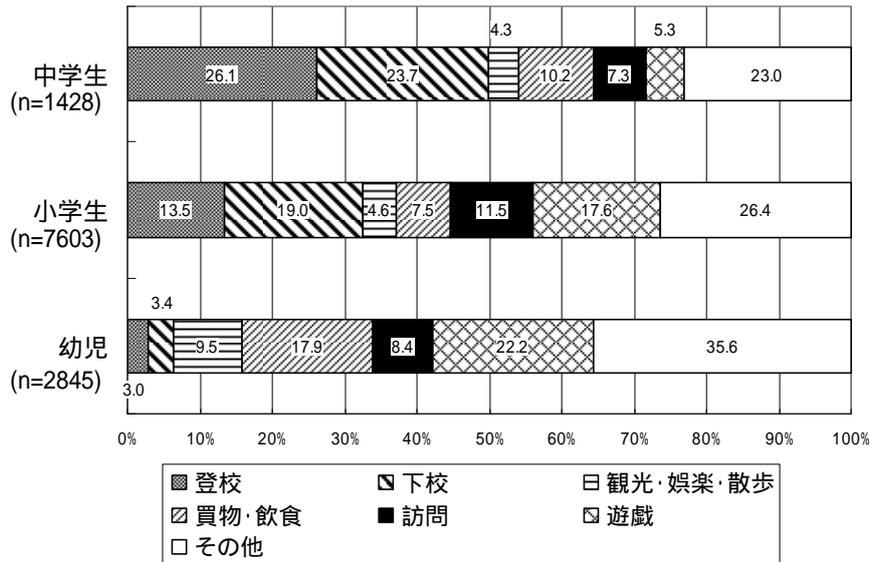
図表 II- 15 中学生・小学生・幼児別・時間帯別交通事故死傷者数内訳



目的別死傷者数

子どもの歩行中の交通事故死傷者数は、中学生では「登校」「下校」目的時、小学生では「下校」「遊戯」目的時、幼児では「遊戯」「買物・飲食」目的時に多くなっている。

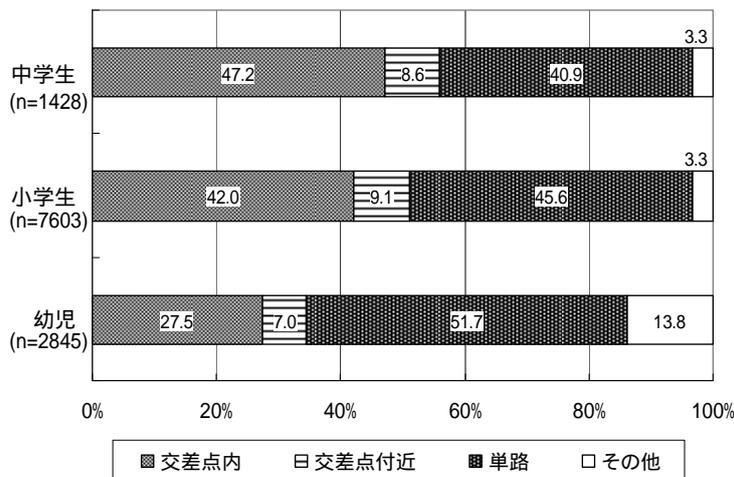
図表 II- 16 歩行中の中学生・小学生・幼児別・通行目的別交通事故死傷者数内訳



道路形状別死傷者数

子どもの歩行中の交通事故死傷者数は、「交差点内」「単路」が多い。特に幼児で「単路」の割合が多くなっている。また、幼児における「その他」は親とともに出かけた駐車場等での事故が多いことを表している。

図表 II- 17 歩行中の中学生・小学生・幼児別・道路形状別交通事故死傷者数内訳



自宅からの距離別死傷者数

子どもの歩行中の交通事故死傷者数を自宅からの距離別で見ると、中学生では「500m 以内」「1,000m 以内」、小学生では「500m 以内」、幼児では「50m 以内」や「2001m 以上」が多くなっている。

図表 -17 と -18 に示される結果は、幼児は親とともに買い物や娯楽施設に自動車で行った際、出先の駐車場で事故にあうことが多いことを反映したものである（したがって、必然的に自宅からの距離も長くなる）。

図表 II- 18 歩行中の中学生・小学生・幼児別・自宅からの距離別交通事故死傷者数内訳

